



第6回日本子ども虐待防止歯科研究会・学術大会 開催にあたって

大会長 末瀬一彦

一般社団法人奈良県歯科医師会会長、第6回日本子ども虐待防止歯科研究会・学術大会

このたび、「第6回日本子ども虐待防止歯科研究会・学術大会」を奈良県歯科医師会館で開催させていただくにあたり、ご挨拶を申し上げます。

本研究会は、2015年6月7日に日本大学歯学部において「設立集会」が開催されて以来、毎年定期的に全国で開催されてまいりました。設立時の発起人メンバーとして県歯会員の吉田美香先生(橿原高市地区)が加わっておられることは、今回の開催にあたって県歯としても絶大な支援をするところです。

さて、児童虐待は社会問題として注目され、2000年に児童虐待防止法が制定されて以来、児童虐待防止に向けた取り組みが全国レベルで整備されてきました。しかし、その発生件数は年々増加しており、2019年の総数(0歳～18歳)は193,780件で毎年20%程度の増加率です。虐待者は両親が88.9%(実母47.7%、実父41.2%)を占め、悲惨な状況です。また、児童虐待には身体的虐待(殴る、ける、投げ落とすなど)、性的虐待(子どもへの性的行為など)、ネグレクト(家に閉じ込め、食事を与えない、不潔にするなど)、心理的虐待(言葉による脅し、無視、差別的扱いなど)があり、2019年の調査では、「心理的虐待」が56.3%を占め、次いで「身体的虐待」25.4%、「ネグレクト」17.2%になっています。さらに、虐待は精神的苦痛のみならず、「愛の鞭」と称した厳しい体罰によって前頭前野(社会生活に極めて重要)の容積が約20%減少し、言葉の暴力によって聴覚野が変形するという身体発育的障害も報告されています(福井大学 友田明美教授)。

虐待を受けている子どもの年齢は0歳～2歳19.5%、3歳～6歳25.6%、7歳～12歳34.0%で、ちょうどこの時期に私達歯科医療関係者は1歳6ヵ月歯科健診、3歳児歯科健診、就学时歯科健診そして学校歯科健診の場において日常的に子どもたちに接しています。さらに、日常の歯科診療時においても「かかりつけ歯科医」として子どもだけでなくその養育者とも関わりがあります。そのため、児童虐待の早期発見に歯科医療関係者はとても重要な評価者となります。また、母子・学校歯科保健領域においても妊産婦に対して口腔ケアや子どもの発育だけでなく、子育てにおける留意点についても教示する機会があると思います。

私たちは、歯科医療関係者として生活環境を包括した日常歯科診療の取り組みとともに、歯科健診や歯科保健指導などにおいて「虐待防止」に向けた啓発を積極的に行っていくとともに、一社会人としても、すべての子どもが健やかに育つ社会環境の実現に向けた施策を構築していかなければなりません。

日本の起源地である古都奈良で開催されます本研究会が「子ども虐待防止」の発信基地となり、会員および県民の皆様方にとりまして有意義な研究会になることを心より祈念申し上げます。

第6回 日本子ども虐待防止歯科研究会学術大会

The Fourth Annual Meeting of Japanese Dental Society for Prevention of Child Abuse and Neglect

開催概要

1. 学会の目的 子ども虐待防止対策をみんなで考えること
2. 学会テーマ えっ！こんなはずじゃなかったのに？
『目の前の小さなズレから始まった…』
3. 主催 日本子ども虐待防止歯科研究会
共催 一般社団法人 奈良県歯科医師会
後援 奈良県
4. 会期 2021年11月7日(土)
5. 会場 オンライン開催
6. 過去開催実績 設立記念大会(2015年) 設立発起人 渡部 茂 代表
第1回学術大会 東京都歯科医師会主宰 高橋哲夫 大会長
第2回学術大会 神奈川県歯科医師会主宰 鈴木俊介 大会長
第3回学術大会 広島県歯科医師会主宰 荒川信介 大会長
第4回学術大会 千葉県歯科医師会主宰 砂川 稔 大会長
第5回学術大会 オンライン開催 仲野和彦 大会長
7. 研究会事務局：日本子ども虐待防止歯科研究会事務局
〒541-0053 大阪市中央区本町1-1-3 東京臨床出版内
TEL：06-6264-7136 FAX：06-6264-7137 jdspecan@torin-pub.co.jp

第6回日本子ども虐待防止歯科研究会学術大会 運営事務局
大会実行委員長 吉田美香(日本子ども虐待防止歯科研究会理事)
大会準備委員長 下岡俊博(奈良県歯科医師会学術委員長)
大会事務局 國府健一郎、宮脇聡子(医療法人檀の木会 さわやか歯科)

大会プログラム

司会：遠藤武弘(えんどう歯科クリニック)

- 9：30～ 9：45 開会の辞 吉田美香(日本子ども虐待防止歯科研究会理事)
 大会長挨拶 末瀬一彦(一般社団法人奈良県歯科医師会会長)
 研究会会長挨拶 渡部 茂(日本子ども虐待防止歯科研究会会長)
 来賓挨拶 亀田忠彦(奈良県橿原市長)
 金剛真紀(奈良県こども・女性局長)
- 9：45～11：00 基調講演Ⅰ 座長：香西克之(日本子ども虐待防止歯科研究会副会長、
 広島大学名誉教授)
 「小児科医～夜泣きは大事なサイン」
 三池輝久(熊本大学名誉教授、日本眠育推進協議会理事長)
- 11：05～12：20 基調講演Ⅱ 座長：北村義久(日本子ども虐待防止歯科研究会理事)
 「耳鼻科医～小児の鼻閉・口呼吸・睡眠時無呼吸と耳鼻咽喉科」
 國弘幸伸(国際医療福祉大学熱海病院耳鼻咽喉科 前教授・部長)
- 12：20～ 昼食休憩
- 13：20～13：40 特別ゲスト挨拶
 秀ノ山親方(元大関琴奨菊)
- 13：40～14：55 教育講演 座長：渡部 茂(日本子ども虐待防止歯科研究会会長、
 明海大学名誉教授)
 「児童虐待防止～小児科医の立場から」
 吉岡 章(奈良県立医科大学名誉教授 前理事長・学長、
 奈良児童虐待防止ネットワーク「きずな」代表)
- 15：00～16：20 シンポジウム「現場からの声」
 座長：渡部 茂(日本子ども虐待防止歯科研究会会長)
 森岡俊介(日本子ども虐待防止歯科研究会副会長)
 倉西道明(奈良県中央こども家庭相談センター所長)
 岡田 悟(児童養護施設 大和育成園施設長)
 日和リカ(橿原市健康部 子育て支援課長)
- 16：20～ 閉会の辞 森岡俊介(日本子ども虐待防止歯科研究会副会長)

基調講演 I



小児科医～夜泣きは大事なサイン

三池 輝久

熊本大学名誉教授、日本眠育推進協議会理事長

ヒトの夜間睡眠は、REM/non-REM睡眠単位(乳幼児：約50-60分、成人：約90分)の「超日リズム：UR」が繋がって持続します。新生児期ではURによる約3時間ごとの睡眠・覚醒リズムで生活しますが、生後2か月では夜間睡眠が5～6時間、4か月では8～9時間、6～7か月では8～12時間ほど持続するようになり、夜を通して眠る力がついていきます。つまり、夜は眠り、日中は覚醒と活動に充てる「概日リズム：CR」が形成されるのです。「UR」を基盤として「CR」が形成されるので、URが規則的でしっかりしている子ほど「CR」への移行がスムーズであることが知られています。

このように子どもの眠りは元来1時間程度の短い時間単位が繋がって生まれるので、つなぎ目では目が覚めやすいのです。夜中に目が覚めてしまい、眠たいのに眠れないなど、気分が良くなければ泣くこともあります。これが夜泣きです。

夜泣きは「UR」生活から「CR」生活への移行期に起こるものです。新生児期が過ぎると、子どもは夜間の眠りが持続するように成長していきますが、夜中に目が覚めた時、子ども自身が自分で自分をなだめること(Self-soothing)で自然に再入眠する力を身につけようとしています。

しかし、ここで保護者が手を掛けてしまうことは(特にミルクや水など胃に入ると内臓時計が活性化され覚醒反応が起こる)、子どもは逆に定期的に目を覚ます習慣(体内時計)を作ってしまう、保護者の愛情と裏腹に睡眠障害の基になることがあるのです。このように、生後4か月を過ぎると基本的に夜間授乳は不必要となり、時には子どもの眠りを妨げることになります。夜泣きはCR形成のバロメーターです。

保護者は赤ちゃんに「夜は眠りが脳を創り、育て、働きを守り。さらに進化するための時間である」こと、そして「食事の時間ではないこと」を教える必要があります。

略歴

1968年、熊本大学医学部卒業。米国ウェストヴァージニア州立大学留学を経て、1984年熊本大学医学部小児発達学教授、その後、東京大学教育学部教授(併任)、熊本大学附属病院長、日本小児神経学会理事長、兵庫県立子どもの睡眠と発達医療センター長、日本発達神経科学学会理事長、などを経て現在は、くまもと県北病院小児科非常勤医、熊本大学名誉教授、日本眠育推進協議会理事長を務める。

専門は小児神経・筋疾患、睡眠障害、発達障害など。

-----メ モ-----



基 調 講 演Ⅱ



耳鼻科医～小児の鼻閉・口呼吸・睡眠時無呼吸と耳鼻咽喉科

國 弘 幸 伸

国際医療福祉大学熱海病院耳鼻咽喉科 前教授・部長

国内の児童虐待件数は平成8年から平成28年までの20年間で約30倍に増加している。そのような背景から精神科医療においても、養育に心配のある親子に対しての介入を実施することが、社会から要請されるようになってきている。

今回の講演の趣旨としては、児童虐待について愛着の観点から改めて考察し、その視点から精神科医療で行える介入や支援について述べたいということにある。

一般的に、児童にとって安定した愛着対象を有することはそれだけで強力なストレスへの防衛手段となりうる。仮に児童がトラウマ的な体験に対しても、安定的な愛着対象者が十分に機能することで、身体的にも、感情的にも、調整緩衝的に作用し、トラウマからの回復を援助することとなる。

しかし被虐待児童においては、安定的な愛着対象が得られにくく、加えてトラウマ体験も多くの場合経験されることとなる。そのため、そのようなストレス防衛システムを十分に構築出来ぬまま、トラウマ関連症状である過覚醒症状、嫌悪記憶の想起、回避症状、認知の変化を経験することとなる。その結果、それらの症状ゆえに安定した愛着対象はさらに得られにくくなる。そのため愛着形成の障害とトラウマ関連障害は絡み合って、作用し続けて、問題は深化していくこととなる。

基本的な介入としては、当然の子どもの安全を確保することが第一と言える。しかし必ずしも虐待という特殊な問題が完全に独立して存在しているわけではなく、むしろその手前には予備的な親子関係が連続的に存在している。よって支援の枠組みとしては、可能な限り児童虐待に発展しないよう予防的な視点を持つことが必要なのだろうと思われる。そのためにも上述したような愛着関係やトラウマの病態を正しく理解して、虐待している（あるいはしかかっている）目の前の親子を見直していくことが重要なのではないかと演者は考えている。

※本講演で使用される画像について、患者さんの許可をいただいています。

略歴

1982年3月	慶應義塾大学医学部卒業
1982年5月	慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科研修医
1983年1月	栃木県済生会宇都宮病院耳鼻咽喉科研修医
1983年10月	国立栃木病院耳鼻咽喉科研修医
1984年6月	国立栃木病院耳鼻咽喉科医員(厚生技官医師)
1986年1月	栃木県済生会宇都宮病院耳鼻咽喉科医長
1986年7月	慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科助手
1991年1月	国立横浜病院耳鼻咽喉科医長(厚生技官医長)
1993年9月	ドイツ・ミュンヘン大学神経内科客員研究員
1995年9月	慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科助手
1996年4月	慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科専任講師
2004年7月	慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科助教授
2007年4月	慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科准教授
2020年7月	国際医療福祉大学熱海病院耳鼻咽喉科 教授・部長
2021年7月	7月31日をもって国際医療福祉大学を退職

----- ✕ 毛 -----





児童虐待防止～小児科医の立場から

吉岡 章

奈良県立医科大学名誉教授 前理事長・学長
奈良児童虐待防止ネットワーク「きずな」代表

年々増加しており大きな社会問題である児童虐待について、小児科医の視点から述べる。

児童虐待とは：

保護者が自ら監護する18歳未満の児童に対して、心理的虐待やネグレクト、身体的虐待、性的虐待を行うことである。児童虐待防止法では、虐待を受けたと思われる児童を発見した者は速やかに市町村や児童相談所等に通告しなければならない。これは国民の一般的な義務であるが、中でも福祉系職員や教師、医師、保健師、弁護士などの専門職は児童虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、早期発見に努めなければならないと定められている。もちろん歯科医師、歯科衛生士も含まれる。

現状と背景：

相談件数は増加の一途(年間20万件超)を辿っている。3歳～学齢期前が最も多い。種別では心理的虐待、ネグレクト、身体的虐待の順に多く、性的虐待の報告数は少ない。死亡数は年間100人前後と高い水準で推移している。

要因：

虐待者側(親)と被虐待者側(子)に大別され、これに環境・社会的要因が加わるが、単純ではない。虐待者は実母が最も多く、次いで実父である。ここに児童虐待の持つ陰湿で深い謎がある。虐待者の心理的・精神的問題としては「母親の育児不安、養育能力の低さ」が高率で、虐待者の衝動性、攻撃性、怒りのコントロール不良などが見られる。さらに、虐待・DVが家庭内(密室)で行われるという発見の困難さが指摘される。

周産期～新生児期の問題：

望まない妊娠、若年・高齢出産、母子手帳未発行、妊婦健診未受診(特定妊婦)、児の健診・予防接種・歯科の未受診などが高率に見られ、産婦人科医・助産師による妊娠・出産・出生時からの積極的な対応が求められる。さらに、低出生体重児や多胎児、先天奇形、基礎疾患、長期入院等小児科診療・小児歯科診療の第一線での対応も極めて重要である。

以下、被虐待児の特徴や発達障害との関係、医師・歯科医師の対応についても述べる。

略歴

- 1970年 奈良県立医科大学(奈良医大)卒業。小児科入局(研究生)
1971年 奈良医大小児科助手。その後、国立大阪病院、奈良医大講師・助教授、Bonn大学、Wales大学留学
1993年 奈良医大小児科教授。その後、附属病院長、法人理事を兼務
2008年 公立大学法人奈良県立医科大学理事長・学長
2014年 同 名誉教授

-----メ モ-----



協力企業一覧 (50音順)

寄付金

有限会社エヌワイ
株式会社デンタリード
東京臨床出版株式会社
奈良トヨタ株式会社
大和信用金庫

バナー広告

朝日レントゲン工業株式会社
株式会社オーティカ・インターナショナル
タカラベルモント株式会社
株式会社筑波総合歯研